

2013年 学長年頭挨拶

新年おめでとうございます。新しい年の始めにあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は色々と変化に富んだ年でした。衆議院の解散総選挙もあり、政府も新しく変わりました。沖縄県にとっては容認出来ないオスプレイや基地の問題などもあります。大学は運営費交付金の削減の他に、給与や退職金さらに年金なども削られ大変厳しい状況に追い込まれた一年でした。

しかし、私共の大学は様々の努力を重ねました。多くは申しあげませんが、そのうちのいくつかを申し上げますと、法務研究科では司法試験合格者の大きな増加がみられます。観光産業科学部の在学生の2名が公認会計士試験に合格しています。日経新聞の九州・山口の大学ブランド力の順位では琉球大学は上位に位置づけられ、学生の就職や外部資金の獲得にも有利に作用すると考えます。大学評価機構からも中期目標・計画が順調に進んでいるということで良い評価を得ています。

さらに、ライジングスタープログラムが修了しましたが、大変優れた若手研究者が巣立つことになりました。文部科学省に毎年要求しています、いわゆる概算要求（特別教育研究経費）は昨年は農学部及び工学部のものが各1件ずつ採択され、継続分と合わせますと大学全体では10数件になります。科研費も元寇の海底遺跡に関する法文学部の研究など、大型のものが採択されています。

琉球大学は特色ある大学として今日まで努力してまいりました。大学の目指している地域貢献や国際性でも他大学にみられない種々の取り組みを行っています。これから益々グローバルになっていく社会では、経済の問題や格差など様々な問題が起こってきますが、グローバル化する社会で大きな問題となるであろう教育や医療の問題、さらにジェンダーの問題もあり、それぞれに対し基礎的な研究をスタートさせています。

昨年から文部科学省では、大学のミッションの見直しが始まっています。最初に工学部、教育学部と医学部について行われます。琉球大学では将来を見すえて特色を強調しつつ、琉球大学が大いに発展することを願い対応を行う必要があります。

最後になりましたが、昨年末に次期学長として大城肇副学長が選ばれました。お祝いを申し上げますとともに、4月より新学長のもとに皆さんが力を結集され、今年がすばらしい年になることを祈ります。

平成25年1月7日

琉球大学長

岩政 輝男